



23歳以下の青年技能者たちが技能を競い合う「第55回技能五輪全国大会」の建築大工の部において出場者95人の中から銀賞を受賞した。昨年に続いて二年連続の受賞だ。

技能五輪は、2日間にわたり12時間という競技時間内で図面作成、部材の木削り、墨付け、加工仕上げ、組み立て作業を行うもの。「ちょっとした削りミスが完成したときの出来映えに大きな影響を与える」こともあって、作業中は根気と体力が必要という。群馬県内の工業高校では建



技能五輪全国大会において二年連続で銀賞受賞

ポラスハウジング千葉

大崎 則治さん
（おおさき のり はる）

全国大会3ヵ月前からは練習に没頭していたというが、今後はプライベートの充実も目指したいところだ

て月に8〜9カ所の現場で上棟作業までを手掛けている。大崎さんにとっては最後の技能五輪だった。会場には両親も駆けつけてくれ、表彰式後には、メダルを母親の首にかけることもできた。銅賞、銀賞と続いただけに、今回こそは金賞を目指したが、果たせなかった「金賞の夢」は後輩たちに託す。

ポラスではこれまで、多くのメンバーが技能五輪はじめ技能グランプリの受賞者たちが現場で活躍しており、大崎さんたちへの期待も大きい。「まずは大工を目指していきたい」という大崎さん。次の目標は技能グランプリでの金賞だ。

(A)